

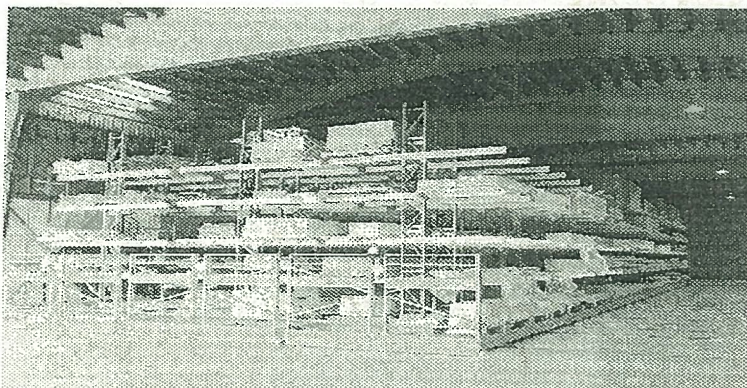


フルタニランバー(石川県金沢市、古谷謙明社長)は、造作材加工・販売を事業の軸に据え、「木製品に関するすべて」(古谷社長)を視野に精力的に事業を展開している。今年7月末には、楽天市場にネットショップ・木還舎を開店し、最終消費者に向け木材利用の窓口を開いたほか、造作材加工で出る端材を利用し、箸6万膳を生産するなど、「木製品」を足がかりに木材の需要喚起や推進を目指している。09年度は13億6000万円を売り上げ、今年度は13億円の売り上げを見込む。

端材やネット利用し需要喚起

フルタニランバー(石川)

輪島産能登ヒバで製品開発目指す



「木製品」を足がかりに木材の需要喚起や推進を目指す

同社は、1904年を手掛け、時代とともに1など幅広い取引先を(明治37年)に創業、に南洋材製材品、ロシナ加工でも対応する自人化しスタートを切った。現在では、中国やインドネシア、クロアチア、カナダやアメリカなど世界各国から原料を直輸入し自社工場では、小口需要に対応カバが織機部材に使われ加工、住宅、家具、建少や品質管理の強化に

1919年に、織機部材の生産・販売を手掛けるようになる。北海道産広葉樹、特にマカバが織機部材に使われていたことで、69年頃には南洋材原木輸入

フリア産アロ

カリアをイン

ドネシアで集

成フリー板に

加工し、販売

していること

も全世界にネ

ットワークが

あるという強

みを持つ同社

ならではだ。プしながら、地元材活

ポーツメーカー

「家具やス

用の道を開いていく。